

オルガノン要約 § 22～§ 34

§ 22 レメディとアロパシー薬：薬もレメディもある種人為的な病気の状態を作り出す。そして、類似か反対の症状を生じさせることで治癒を達成する。もちろん類似のものによってより効果は出るのだが……。類似でも反対でもない薬の適用の仕方がアロパシーのやり方である。

(注) アロパシー批判：生命エネルギーは病気の時、乱れを表現することができるだけであり、自らを治癒することはできない。その生命エネルギーの乱れによる表現を模倣（下剤・吐剤・瀉血など＝当時のアロパシー医がしたこと）しても決して治癒には至らない。

§ 23 反対の症状を生み出すか緩和するだけの薬では、真の治癒を達成できず、より悪化して再発する。

§ 24 レメディの役割：ホメオパシーのレメディは病気の総体・全体像に類似した症状を起こすことができる。多くの中からそういう一つのレメディが求められる。

§ 25 レメディの適用範囲：レメディはほとんど全ての症状を生み出すことができる。癒すべき病気の総体に類似し適切にポテンタイズされ微量投与であれば、例外なく完治させることができる。

§ 26 根本原理

生きている身体において二つのエネルギーが動的に作用する場合、弱い方の作用は強い方の作用によって消される。ただし強いほうの作用は、作用が現れた状態において、弱い方の作用に類似していなければならない。(注) 事例列挙。

§ 27 レメディが完全な治癒をもたらすためには、きわめて完全に類似した仕方で症状の総体を人間の健康状態におのずから生み出せる力を持ち、同時にその力は病気よりも勝っていないなければならない。

§ 28 § 26 の基本法則は事実であるから、そのメカニズムを説明するのはあまり重要ではないが、以下の見解は経験上事実として認められる。

§ 29 レメディは自然の病気よりもよりも少し強く働くので、自然の病気はレメディによって根源的生命から消失してしまう。そのとき根源的生命はレメディによって活動させられ支配されている。

(注) レメディのエネルギーは自然の病気よりもはるかに強いが、作用する期間が短いので、バイタルフォースが容易に打ち負かすことができる。慢性マヤズムの作用は生涯続く。

§ 30 したがって人間の身体を変化させる力は、自然の病気よりもレメディの方が強い。

§ 31 罹病性

生命にとって敵対的に働くもの＝病的な有害因子。

有害因子を受けやすい傾向と素質があるときにだけ病気になる。無条件にすべての人が病気になるわけではない。

- A) 病気とは健康状態の乱れのこと。
- B) 病気は物質的、化学的な変化ではない。

§ 32 レメディはどんな人間をも無条件に人為的な病気の状態にする（感染させる）ことができる。

§ 33 自然の病気＝条件的。レメディの病気＝無条件。

（注）猩紅熱の「予防」として Bell.を用いて効果があった。つまりレメディのエネルギーは人間の生命エネルギーを変化させる強い力を持っているに違いない。

§ 34 レメディが効果を発揮する条件：

- A) 治癒すべき病気に限りなく類似していること。
- B) その病気よりも少し強いこと。